

社員間で感謝送るアプリ導入

一誠商事 社内交流の活性化へ

約2万3000戸の賃貸住宅を管理する一誠商事



RECOGで送られた社員同士の感謝のメッセージ

事(茨城県つくば市)は、従業員の満足度向上を目指すし、働きやすい職場環境づくりを追求する。社員同士で感謝の気持ちを伝え合うコミュニケーションの仕組み、「ピアボナス制度」を新たに導入。社員同士の信頼関係の構築や、チームワークの強化を図る。

同社の社員数は256人で、離職率は3%。厚生労働省の「令和3年雇用動向調査結果の概況」による、不動産業界の平均離職率11・4%を大きく下回っているが、さら

なる職場環境の整備に努める。

同社は、2021年7月に人事部を設立した。それまで総務経理・人事部として、人事業務以外にも兼務する体制から変更した。人事部の小俣浩部長は「当社は創業から50年がたつ。時流に合った社内制度を取り入れる専門部隊の必要性を感じ、人事部としての独立に至った」と話す。

の人事評価において、上司・部下のほかに、同僚らの評価を加えた。この360度評価の運用を、より効果のあるものにするべく23年1月から導入したが、ピアボナス制度だ。

同制度は、自分が感謝や称賛を送りたい人にその思いを届けるシンプルな仕組み。例えば、担当のない仕事を自主的に実行する人に対して、それに気付いた人が感謝の気持ちを送る。廊下のゴミ拾いや、会議後の机の整理整頓などがその例だ。

感謝の気持ちは、アプリを用いて伝えている。シンクスマイル(東京都千代田区)が提供するチームワークアプリ「RECOG(レコグ)」を利用。全社員がパソコンや

スマートフォンからアクセスでき、感謝のメッセージを投稿すると、タイムライン上に掲載される。社内で行われる感謝や称賛により、社員の間関係が可視化される。360度評価の際に、対象者のことをよく知っている社員を選定できるため、精度の高い人事評価につながると同社はみる。

開始から2カ月半で、月平均約310通のメッセージが送られているという。定形フォルダの整理整頓に対してや、物件解約の情報共有への感謝などが飛び交う。

「今後も、社員とその家族の将来の生活向上と安定の実現を目指す。離職率は3%以下を目標値に設定する」(小俣部長)